第7回　石木ダムに係る有識者の意見を聞く場（佐世保市長）議事録

日時：令和8年9月25日（金）14時12分～14時38分

開会

それでは、少し定時より早いですけれども、ただいまから「第7回　石木ダムに係る有識者の意見を聞く場」を始めさせていただきます。

なお、本日のご発言内容につきましては、後日、議事録全文を県庁のホームページに掲載させていただく予定としております。よろしくお願いいたします。

それでは、以後の進行につきましては、知事にお願いいたします。

開会挨拶、進行方法説明

○進行　平田知事

本日は、宮島市長におかれましては、大変お忙しい中、お時間をいただきまして誠にありがとうございます。

ご案内のとおり、「石木ダムに係る有識者の意見を聞く場」につきましては、これまで学識者の皆様をはじめ、川棚町議会議員の皆様、ダム建設予定地上流の木場地区にお住まいの皆様、県議会議員の皆様、さらには先般、川棚町長からもご意見をお伺いするなど、様々なお立場の方々から幅広くご意見をお伺いしてまいりました。

また、ダム建設に伴い用地をご提供いただきました石木ダム地域住民の会の皆様や佐世保市議会、さらには、先ほど、佐世保商工会議所及び石木ダム建設促進佐世保市民の会の皆様からも、「意見を聞く場」の開催に代えて、要望書をご提出いただいております。

これまで、それぞれのお立場から、石木ダム事業に関する様々なご意見やご提言をいただいてまいりましたが、その中には見解を異にする点も見受けられているところです。

今後、それらの点について整理を進めてまいりたいと考えております。

今日は、市政を担っておられるお立場から、石木ダム事業に対するお考えや、佐世保市の水道行政を取り巻く現状や課題、将来を見据えた方向性などについて、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いに存じます。

なお、これまでの「意見を聞く場」と同様、ご意見をお伺いすることを主眼としておりますことから、私自身の考えや所感を申し述べることは差し控えさせていただきたいと存じます。

何卒、その点につきましては、恐縮ですけどもご理解いただきますようお願いいたします。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、宮島市長からご意見をお聞かせいただければと存じます。市長、よろしくお願いいたします。

佐世保市長からご意見

●宮島大典　佐世保市長

着座にて失礼いたします。まずもって、平田知事には大変お忙しい中に、佐世保市役所までお越しをいただき、誠にありがとうございます。

また、ご就任以来、早速に県北知事室などを新設いただきまして、佐世保市をはじめとする県北の振興について、自ら各地を赴かれまして、様々なご意見を聞かれるなど、振興をスタートしていただきましたことに心から感謝を申し上げたいというふうに思います。

また、本日は本市の最重要課題であります石木ダムにつきまして、様々なご意見を様々な立場の皆様方からお聞きになる中で、本市の意見もお聞きをいただきますことに心から敬意を表した

いというふうに思います。

石木ダムに係る私の意見を、ということでございますので、まずは、現在の本市の渇水状況についてお話しさせていただきたいと思います。

近年は、地球規模での気候変動の影響によりまして、極端な大雨と干ばつの二極化が進んでおり、日本でも今年は全国各地で、過去に例のないような水害や渇水が多発をしております。

国が示す気候変動にかかるガイドラインにおきましても、今後もこの傾向は進んでいくものと示されており、高まる「水」のリスクに対応していくことは行政の極めて重要課題となっております。

全国的、あるいは、世界的に「水」に対する対策の必要性が増している中で、本市は抱えている水瓶が少ないことから、ものの1、2ヶ月で貯水率が急激に低下し、渇水対策を余儀なくされます。

今年も、梅雨明け以降雨が非常に少なく、下の原ダムでは、8月末時点で約60%に一気に落ち込んでおり、9 月 3 日から減圧給水制限を行っております。

先週末に待望のまとまった雨が降りまして、現在は70%程度に回復をしておりますが、例年、秋口から冬場にかけては、雨が少ない時期を迎えることになります。

例年はこの時期に貯水率が30から50ポイント減少しておりますことから、本来、今の時期は、100%に近い状態を維持しておかなければ、冬場を乗り切ることが難しいため、まだまだ予断を許さない状況でございます。今回の減圧給水制限は、本市が石木ダム事業に参画した昭和50年以降で、通算5回目の給水制限となっており、市民の皆様、企業や事業所の方々にはご不便をおかけしているところでありますが、渇水は、未だ現在進行形でありますので、今後の雨次第では、より厳しい対策を余儀なくされないとも限りません。

断水となったときの影響は多岐にわたりまして、経済面を含めて様々な被害を招いてきた経過がありますことから、何とか雨を待って断水を回避したいという考え方であります。

しかしながら、石木ダムが完成していれば、今の状況は一定回避できたと思われ、事業の遅れが今の状況を生んでいることについては、知事にも改めてご理解をいただきたいと存じます。

それでは、石木ダムの必要性について、私の立場からの意見を申し上げたいと思います。

本市は、共同起業者として、約50年間、長崎県と歩みを共にしてまいりました。

当初は昭和54年完成とされていました本件事業は、10回の工期延長により、通算53年の延長となり、事業費も当初は160億円であったものが、物価高騰の影響もあり、現在は420億円となっております。

昭和後期から平成初頭に全国的に経済が活性化し、他都市が順調な発展を見せることを尻目に、本市は2年に1度は渇水を繰り返すような状況で、大きな産業を呼び込むことも叶わず、発展の機会を逃し続けたまま、現在の人口減少局面を迎えてしまいました。

本市がなぜ、水を必要としているのか、石木ダムを必要としているかについては、この50年の歩みの中で、十二分にご承知のことと思います。

とりわけ、水源確保の量的必要性や、石木ダムに代わる水源確保策の非代替性などの子細な計画論については、これまでにも多大な時間を要して繰り返し、同じ議論を重ねてきたところでございます。

今でも「確保する水源量が多すぎるのではないか？」とか、「海水淡水化や佐々川の水利権など、他の方法があるのではないか？」などの意見を見聞きすることがございますが、これらのことは、ダム検証・事業再評価・事業認定・司法判断と、幾重にも厳しい審査を県と共に乗り越えてきたものでございますので、この場の貴重な時間を用いて改めて申し上げるまでもないことだという

ふうに存じております。

本日、私からは、水の確保がここまで遅れてしまったことによって、本市がいかに窮地に追い込まれているのか、佐世保市の都市経営において、水の確保ができなければ、この先、どのような悲観的な未来が待ち受けているのか、そして、それがもう目と鼻の先にまで迫ってきている切迫した状況にあることについて、改めて申し上げたいと思います。

本市の人口転出超過が、全国の市町村で最も多くなっていることは知事もご存じのことと思います。

本市の転出の多くは、若者が進学や就職を機に出ていくことによるもので、これはひとえに十分な雇用が用意できていないことを表しております。

なぜ、雇用が確保できる企業がないのか。それは「水」が無いからであります。

多数の雇用を伴う企業は、主として工業系に限られ、工業系の企業の誘致には、十分な量の水を用意する必要があります。

県内で、転入が転出を上回っている自治体は、21市町中、3市町しかありません。このうち明確な転入超過となっているのは、諫早市と大村市のみであります。いずれも、日量1万トンを超える工業用水を確保されており、企業誘致が順調に進んでいる自治体です。

ひるがえって、本市は、生活用の水すら不足している状況ですので、工業用水の確保など出来るはずもなく、全くのゼロです。

企業誘致には、わずか数百トン程度の水道水を頼りに行っていますが、工業用水に比べて単価が5倍以上高く、10分の1にも満たない量と高価格で、周辺市町との企業誘致競争に勝てるはずもありません。

私も市長になって 3 年半余り、企業誘致、トップセールスを行っておりますが、その大きな壁に今、ぶち当たっております。

本市は、県内第2位の人口規模を誇り、県北経済圏の中心を支える中核市であります。

工業系の高等学校や高等専門学校を複数抱え、優秀な人材を多数育てています。高速道路が整備され、人流・物流も円滑化されており、何より、地震や津波のリスクが低いという全国的には希少価値が高い強みも持っています。

しかしながら、残念ながら、水が無いために企業を呼び込むことが出来ない。そのために、優秀な人材が他都市に流出しているのです。

そして、もうひとつ。本市が基地のまちとして、国防政策上の“西の重要拠点”としての役割を担っているという点も十分ご理解いただきたいと思います。

これは、国際安全保障の観点のみではなく、東日本大震災の折、米国側の救援活動、いわゆる「トモダチ作戦」の拠点となりましたように、災害対応においても重要な拠点となってきたのです。

このような活動においても「水」は必ず必要になります。本市にとっての「水」の問題は、本市だけの問題に留まらないものであることを知事にもご認識をいただきたいと存じます。

また、本市の水道料金は、過去に大きな渇水に見舞われたことが直接の原因となって、大幅な値上げを重ねてきた事実があります。

今では、全国の人口規模類似都市中、最も高い料金となっています。このことは、単に市民の家計を圧迫するにとどまるものではありません。

水を使わない企業は存在しません。既存の企業の生産活動にも大きな制約を与えることになり、それが市民所得にも跳ね返ります。

佐世保市の経済活動の低迷は、県北地域全体にも波及いたします。世間では、よく「南高北低」と言われますが、本市の水の不足がその状況を生み出している要因の一つとなっていることは間違いありません。

それゆえに、6月の知事への要望活動においても、「石木ダムの確実な完成と県内の水道料金の格差の緩和」を求めさせていただいた次第です。

この場を借りて、改めて、水の不足と料金の格差を県政の重要課題としてご認識いただき、前向きな対処をしていただくことを要望いたします。

これ以上問題が大きくなれば、佐世保市の都市経営そのものが立ち行かなくなります。それは本市だけに留まらず、県北地域全体の衰退を招くことに繋がります。

既に、人口転出超過は全国ワースト1位。水道料金は全国の人口規模類似自治体トップとなってしまいました。

私たちに時間は残されていないのです。石木ダムの必要性については、同じ議論を繰り返している余裕は私たちにはありません。その議論は、既に司法判断などを経て結論に至っています。

石木ダム建設促進佐世保市民の会は、かつて、知事に対して、事業認定という法的整理がなされたからには、市民の後押しを求めるのではなく、行政の責任として粛々と進めていくべきであることを要望されました。もう今から既に10年以上前のことであります。

一昨年の本市の事業再評価の折には、諮問機関からの答申において「事業主体のやる気と覚悟が欠如している」との厳しい指摘も受けました。

今私たちが県に求めることは、過去の議論に戻ることではなく、二度と工期延長をすることなく、確実にダムを完成に導くよう、目に見える形で事業を進めていくことであります。

もちろん、そのためには、地元住民の方々のご理解が不可欠です。

代々受け継いできた土地やコミュニティを大切にされているからこそ、ダム建設は受け入れがたいものだと思いますし、住民の方々の心情を思うと心苦しいものがございます。

住民の方の思いを大切にすることと、多くの県民・市民を洪水や渇水から守ることは、折衷案で折り合いをつけ難い課題であり、これまでに数多くの人達が時間を費やして、なお、解決できずにここまできた、本当に難しい政策課題であります。

知事が改めて様々な立場の方から意見を聴取されているのも、このような極めて難しい判断責任を負われているが故のことと察する次第であります。

私も、共同事業者として、佐世保市の行政の長として、その責任の一翼を担っている立場でございますので、その重い責任を共に分かち合い、また、川棚町の地域振興を含めて、共に発展をしていけるよう、佐世保市長として私にできることは、最善を尽くしてまいりたいと思っております。

本市が担っている役割や置かれている実情を何卒ご理解いただき、知事及び県ご当局のご英断を切にお願いを申し上げますとともに、これ以上、問題を先送りにすることなく、私たちの代で、この50年の歩みが結実することを心より念願をいたしまして、私の意見とさせていただきます。

ありがとうございます。

知事からの質問

○進行 平田知事

ありがとうございます。それでは私の方からいくつかご質問させていただきたいと思います。まず石木ダムについてはこれまで事業にご賛同いただいて移転をされた方々、そして一方で 13 世

帯の皆様、依然として反対のお立場で現地に残っておられるわけですけども、そうしたダムの予定地のそれぞれの色々な立場の住民の皆様への市長としての思いなどがございましたら、教えていただければと思います。

●宮島大典 佐世保市長

あの、先ほども申し上げました通りに、反対をされる皆様方には、まさに先祖代々受け継がれた土地、また、コミュニティを大事にされるお気持ちというものは十二分に理解もできますし、そうした皆様方の思いというものについては、私どももしっかりと受け止めたいというふうに思います。

しかしながら、一方におきまして、先ほども申し上げましたが、本市にとりまして、残された時間というものは極めて少ないというふうに考えております。

何卒、反対される皆様方のご理解を賜りますよう心からお願いを申し上げたいというふうに思っております。

また一方で、賛成をされた皆様方にはこれまでダムがそこに建設をされるということを望まれないような形でも移転をされたというふうに思いますので、その皆様方にも心から改めて感謝を申し上げたいというふうに思っております。

〇進行 平田知事

はい、ありがとうございます。この夏の少雨の中で今、減圧給水などもやっておられるわけですけども、改めて市長のお立場で、この夏の少雨渇水の対応の仕方、色々なご苦労があるかと思いますけどその実感といいますか、そうしたところを教えていただければと思います。

●宮島大典 佐世保市長

私も平成 6 年の大渇水の時の状況を時々思い返すことがございますが、まさに、佐世保市の社会、市民生活もあるいは企業活動も全てが大混乱をした状況にありました。

今年のこの夏の状況というものを照らし合わせますと、その平成 6 年の状況に非常に類似をしている。そのことを非常にやっぱり心配をするところでありまして、我々といたしましては大変厳しい判断でありますけれども、市民の皆様方のご理解をいただいて何とかこの節水にご協力をいただいているような状況であります。

節水の効果といたしましても、約 5%ほどの効果というものが出ておりますけれども、これも、ひとえに市民の皆様方のご協力の賜物と感謝をいたしております。

一方で、先日週末にはまとまった雨が久しぶりに降りまして、恵みの雨であったわけでありますけれども、ダムの貯水率自体は一定上昇いたしましたが、何せ、私どもが抱えるダムというものは、全て規模が小さいダムでございまして、貯水率自体は上がったものの、貯水している量は極めてまだ厳しい状況が続いていると。

そういう意味では今日午前中にも定例記者会見でもお願いを申し上げましたけれども、引き続き南部水系の皆様方には減圧給水へのご理解と、またご協力をお願いしたところであります。

〇進行 平田知事

はい、ありがとうございます。佐世保市の水源の確保に関しまして、常に人口減少の中で今後も必要なのかという議論が出てくるわけでありますけれども、改めて人口減少の下でも水源の確保

が必要であるということのお考えの部分について、もう少し詳しく教えていただけないでしょうか。

●宮島大典 佐世保市長
　水需要の予測につきましては、近年加速をしております人口減少率が当面続くという、そのような前提で推計をいたしております。
　先ほども申し上げました通りに、本市の転出超過がワースト水準ということが続いているわけでありますけれども、今回一位というふうになったものの、水需要予測に直接影響を与えるものではないというふうに判断をいたしております。

○進行 平田知事
　はい、ありがとうございます。あと、佐世保市の水道に関しては、漏水対策など、不十分ではないかという指摘をされる方もおられたりしますけれども、水道行政の中で、これまでどういった努力をされてこられたかといったところについてのお話を伺えればと思います。

●宮島大典 佐世保市長
　漏水対策については、今もちろん本市は特に水道管などの施設が老朽化というものが著しく、古いものでは戦前からこれを使っている施設というものも少なくございません。
　したがって、今計画的に水道管、漏水対策を含めて水道管の交換などを行わせていただいているところでもございます。
　また一方で、水源の確保につきましては、例えば南部水系の唯一のダムであります、下の原ダムにつきましては、過去にかさ上げ事業なども行ってきて、その水量の確保にも取り組んできたところでありまして、様々な思案というものを、今、県ともご相談しながら、またお力もいただきながら、これまで進めてきたというふうに考えております。

○進行 平田知事
　はい、ありがとうございます。あと、先ほどのお話の中で、企業誘致で大変ご苦労されているといった話、また、同時に安全保障の関係でも水の備えが必要であるというお話がございましたけれども、佐世保市の水源確保にあたって考慮すべき事項といいますか、産業振興であったり、安全保障であったりとか、様々あるかと思いますけれども、今日お伺いしたこと以外に、何か考慮すべき事項とかありますでしょうか。

●宮島大典 佐世保市長
　先ほど申し上げました通りに、経済活動や、あるいは、市民生活に大きな影響が水源不足が関わっているということは間違いございません。
　そうした中で一つ加えさせていただければ、やはり今回、水道料金というものを大幅に改定をさせていただいたということについて、ここに水源不足というものが極めて大きく関わっているということ、このことにご理解をいただきたいというふうに思います。
　先ほども知事からお話がありましたが、人口減少との兼ね合いはありますが、一方で、古い老朽化している施設というもの、また、佐世保は独特のやはり地形的な課題も抱えておりまして、やはり

ポンプなど数多くの施設というものが存在をいたしております。
　そういう施設というものを維持していくというためには、やはりこの水道料金というものは、水源不足というものがそこに大きく関わっていく。
　今までは、例えば水というものを一定多く使うことによって、その方に多くの負担というものを掛けなければならない。例えば、他市の状況などを見てみますと、多く使っている大口事業者の方には一定安くするとか、そういう配慮というものが出来るというふうに思うわけでありますが、我々にはそういうものが全くできずに、使った分だけその分高くなるというような、また逆に節水をする方には安くするようなということで、結局全体的な収入といたしまして、減っていく方向に自ずとなっていくというような構造的な問題というものを抱えているということであります。
　したがって、水源というものが確保できれば、そうしたことにも十二分に配慮が出来るというふうに思いますし、先ほど、目的であります企業誘致だとか、あるいは市民の生活、水道料金等にも、このことがしっかりと反映できるというふうに思っています。

〇進行　平田知事
　はい、ありがとうございます。時間も予定された時間に近づいてきましたので、私の方から最後に、共同事業者ではございますけども、県の事業の進め方などにつきまして、ご意見とかございましたら、忌憚ないところをお願いできればと思います。

●宮島大典　佐世保市長
　県にお願いしたいのは、重ねてになりますけれども、是非計画通りにこの事業というものを完成をしていただきたいと。このことをお願い申し上げたいというふうに思います。
　もちろん我々も共同起業者といたしましてその責任を担っておりますので、一緒になってしっかりとその責任を果たさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げたいと思います。

〇進行　平田知事
　はい、ありがとうございます。予定されていた時間、開始も少し早かったので、予定されていた時間にもなりましたので、このあたりで本日の意見を聞く場を終了させていただければというふうに存じます。
　本日お聞きした貴重なご意見を踏まえまして、私なりに論点を整理をしまして、今後の河川整備計画の変更の必要性、あるいは、石木ダム事業の在り方などにつきまして検討を進めさせていただきたいと思います。本日は大変お忙しい中ありがとうございました。

閉会
〇進行　事務局
　以上をもちまして、本日の「意見を聞く場」を終了させていただきます。